

平成29年度教育研究活動報告書

氏名	津村 怜花	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経営学）	職位	准教授
専門分野	会計史、簿記、財務会計		
I 教育活動			
本年度担当科目			
	授業科目		
学部	簿記原理Ⅱ 会計学（会計学概論） 財務会計論 基礎演習		
大学院	簿記論特論		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
〈著書〉 〈展覧会〉 〈論文〉 〈翻訳〉 〈学会発表〉 〈学術表彰〉 〈その他〉			
（1）〈著書〉『近代会計史入門』2014年、同文館出版（共著）			
（2）〈著書〉『会計研究者として活躍する女性たち 輝ける未来へ向けて』2018年、中央経済社（共著）			
（3）〈論文〉「『馬耳蘇氏記簿法』および『馬耳蘇氏複式記簿法』に関する一考察」『日本簿記学会年報』第25号、2010年（査読付き）（単著）			
（4）〈論文〉「森島修太郎にみるアメリカ簿記書の影響」『日本簿記学会年報』第30号、2015年（査読付き）（単著）			
（5）〈論文〉「福沢にみる西洋簿記現地化の試み」『企業会計』第68巻第3号、2016年（単著）			
本年度を含む過去3年間の研究業績			
〈著書〉 〈展覧会〉 〈論文〉 〈翻訳〉 〈学会発表〉 〈学術表彰〉 〈その他〉			
（1）〈著書〉『会計研究者として活躍する女性たち 輝ける未来へ向けて』2018年、中央経済社（共著）			
（2）〈論文〉「日本的会計制度としての伝票会計システムの発生と展開」『国民経済雑誌』第214巻第2号、2016年（共著）			
（3）〈論文〉「国立銀行の設立と銀行簿記—シャンド・システム形成過程に関する一考察」『日本簿記学会年報』第31号、2016年（査読付き）（単著）			
（4）〈論文〉「福沢による西洋簿記現地化の試み」『企業会計』第68巻第3号、2016年（単著）			
（5）〈研究報告書〉「わが国女性会計学者の現状と課題」（日本会計研究学会スタディ・グループ最終報告書）、2016年（共著）			
（6）〈研究報告書〉「わが国女性会計学者の現状と課題」（日本会計研究学会スタディ・グループ中間報告書）、2015年（共著）			
（7）〈論文〉「森島修太郎にみるアメリカ簿記書の影響」『日本簿記学会年報』第30号、2015年（査読付き）（単著）			
（8）〈その他〉「日本における西洋簿記の発達史とは」『企業会計』第69巻第7号、2017年（単著）			
（9）〈その他〉「複式簿記の移転と社会文化的背景」『企業会計』第69巻第8号、2017年（単著）			
（10）〈学会発表〉「国立銀行の設立と『銀行簿記精法』」日本簿記学会第31回全国大会、2015年（単独）			
（11）〈学会発表〉「わが国における女性会計学者の現状と課題」（スタディ・グループ中間報告）、日本会計研究学会第74回大会、2015年（共同）			
（12）〈学会発表〉「わが国における女性会計学者の現状と課題」（スタディ・グループ最終報告）、日本会計研究学会第75回大会、2016年（共同）			
現在の研究テーマ（3つまで）			
（1）わが国における西洋簿記導入過程の研究			
（2）会計システムの機能に関する歴史的研究			
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績）			
所属学会・所属団体 役職等			
日本簿記学会会員、日本会計研究学会会員、日本会計史学会財務担当幹事			
IV 社会活動			
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）			
（1）日本会計史学会会員兼財務担当幹事			
（2）日本簿記学会会員			
（3）日本会計研究学会会員			